

児童福祉専門職の育ち

— 同じ乳児院で働く専門職相互の影響を中心として —

○神奈川県立保健福祉大学 新保 幸男 (1599)

在原理恵 (神奈川県立保健福祉大学・3867)、石井忍 (神奈川県立保健福祉大学・5686)

キーワード：乳児院・専門職・質的研究

1. 研究目的

社会的養護分野で働く児童福祉専門職について、その職に就いてからベテラン職員になり、定年退職を迎えるまでの間の専門職としての育ちをできるだけ丁寧に把握することを目的とする「専門職についてのインタビュー調査」を継続的に進めている。

その一環として本研究報告に向けた分析を進めているが、本報告は、乳児院における 21 人の専門職へのインタビュー調査により得られたデータに基づいて、年齢や経験や職位などが異なる同一施設内で働く専門職が、お互いの専門職としての育ちにどのような影響を与えているのかについて、それぞれの語りを通して理解することを目的としている。

専門職としての育ちについては、同じ施設で働く専門職同士が、お互いに影響し合っていることが、本継続研究を通してわかってきている。今回の報告においては、同じ施設で一緒に働いている専門職員相互間での影響について、お互いの語りを通して得られた情報に基づき、それを「専門性の育ちについての相互の影響」という視点から分析を試みる。

2. 研究の視点および方法

インタビュー調査に基づく、質的データによる記述的研究。平成 27 年度～28 年度に実施した同一施設で働く専門職へのインタビュー調査から得られたデータに基づいて「専門性の育ちについての相互の影響」という視点から分析を試みる。

本報告の対象となる同一施設で働く 21 人に対するインタビュー調査は、同一日ではないが 20 日以内の範囲で全員のインタビューを行った。

インタビュー調査は、21 人の専門職について、1 人 1 人別の時間帯に、個室で実施した。その際、入職の前、入職直後、入職時点から調査時点にいたるまでの状況について、①どのような経験をし、②どのような研修・教育を受け、③どのような戸惑いを覚えながら課題に対応してきたのか、④どのような心の揺れを経験したのか、という 4 つの質問項目を提示しながら、インタビューを進めた。それぞれのインタビュー時間は 90 分～150 分程度であった。

インタビューの内容は、録音し、文字データとして起こし、そのデータを、専門職 1 人 1 人の専門職としての育ちという視点から分析し、それぞれの特徴を明らかにする作業をまず行った。

その次に、21 人のデータを並べた上で、専門職の育ちに相互に影響を与えている点についての各人の語りに注目し、その同じ点について語っている複数の人の語りを組み合わせながら、その場面の状況を組み立てたうえで、その場面がそれぞれの専門職の育ちに与えている影響について、「専門性の育ちについての相互の影響」という視点に注目して分析を進めた。

今回の研究報告で扱う研究対象として、乳児院を選択した。日本子ども家庭福祉学会 (平

成 29 年 6 月 4 日) において、母子生活支援施設を対象として同様の研究報告を行ったが、今回は乳児院を対象とする研究について報告を行う。乳児院では、看護師、保育士、管理栄養士、社会福祉士、臨床心理士が同じ施設の中で勤務しており、異なる専門性を有する専門職員が相互にかかわりながら職務を遂行している。異なる専門性を持つ専門職相互間での専門性の育ちについて検討を試みるのが今回の研究報告の特徴である。

本研究は、①神奈川県立保健福祉大学地域貢献研究センター平成 27 年度研究助成事業、及び②平成 28 年度厚生労働科学研究(H28-政策-指定-007)による研究助成を受けて実施した。

### 3. 倫理的配慮

本研究は、「一般社団法人日本社会福祉学会研究倫理指針」の規程に沿って実施した。その際、倫理指針第 2 の 5 に規定に基づいて、①「対象者を特定できないように匿名化」とともに、さらに匿名性をより確保するために、②「要旨や資料などに掲載する内容の一部について、事実と異なる一定の加工」を加えている。加工の程度は、本研究の目的を著しく逸脱しないような範囲にとどめている。

また、神奈川県立保健福祉大学研究倫理委員会による承認(保大第 25-20)を得たうえで本研究を進めた。

### 4. 研究結果

(1) 異なる専門性を有する専門職が他の専門職の専門性の内容について理解しようと試みていた。

(2) その方法の一つとして、栄養士が保育士とともに保育業務に入り、保育業務をしながら、個々の子どもの生活の状況を把握するように試みると共に、保育士が日々行っている業務の内容について理解するための機会としていた。

(3) 保育士と看護師とが同じローテーションに入り仕事を行うことで、保育職と看護職とがお互いがもっている知見などを学び合う機会となっていた。

(4) 臨床心理士と保育士・看護師とは同じローテーションには入っていなかった。臨床心理士が見えている状況と保育士が見えている状況との間に、一定の齟齬があると思われた。

(5) 経験年数が長い人は、経験年数が短い人に対してサポートを行っていた。サポートの内容について、相互間には一定の認識の違いがあった。

### 5. 考察

①同じ専門職同士の関係を見るという視点、②異なる専門職間の関係を見るという視点、③「経験年数」「実年齢」「人生経験」などが異なる人同士の関係を見るという視点、④管理職とそれ以外の職の人との関係を見る視点、⑤交替勤務のローテーションに入っている人とそうでない人との関係を見る視点、⑥「保護者と面談することが多い人」と「子どもと接することが多い人」との関係を見る視点、それらの視点を組み合わせることで、同じ施設内で働く専門職相互の専門性育ちについてより深く考察しうる可能性が示唆された。